教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のＷｉｎ－Ｗｉｎの関係」の構築

東浦町ＳＰ通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第４号
2026 年 5 月 19 日

編集　緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

「～しないで」って難しい！

←緒川小　加藤ＳＰ

ウィークリーＳＰ活動の初日は、基本的にコーディネーターが付き添いをしています。加藤ＳＰは、今日が初めてのＳＰ活動でした。まずは初日、お疲れ様でした。「緊張します。」と話していましたが、さっそく先生方から指示をいただき、一生懸命考えながら確認しながら動いてくれていました。分からないことがあった時、確認してくれたり、一生懸命動いてくれたりする人は現場で重宝されます。加藤ＳＰ、バッチリです！加藤ＳＰの柔らかい優しい雰囲気を感じ取った子どもたちは、どんどん声をかけに行っていました。「小学生ってこんなにパワフルなんですね！すごいですね。」と加藤ＳＰは驚いていました。５月中は１年生の教室での支援がメインになるそうです。子どもたちとの関りを楽しみながら活動していってくださいね。

今日のタイトルにした「『～しないで』って難しい」についてです。**「ピンクの象を想像しないでください。」**と言われたら……きっと今みなさんの脳内にはピンクの象が思い浮かんでいるのではないでしょうか（笑）。人間の脳の作り的に、否定文は肯定文より理解するプロセスが複雑になる（時間がかかる）そうです。先ほどの例でいえば、否定をイメージするために、脳内で一旦否定される内容（＝ピンクの象）を思い浮かべて、それから否定であると理解する作業が行われることになります。このように、脳が成熟した大人でも否定のイメージに時間がかかるということは、脳が発達途中の子どもにとってはより難しい作業になります。学校でよく聞く「歩こうね」は、「走らないで」という否定文を子どもたちに伝わりやすいように肯定文に言い換えています。ベテランの先生方ほど、意識的にこうした言葉かけをされているように感じます。（もちろん個人差やその時の状況によって、どんな声かけがベストかは変わると思いますが。）

現在子育て真っ最中の私ですが、なみなみに入ったコップを３歳児が片手で持っているのを見かけるとついつい「こぼさないで！」と言ってしまいそうになりますが、そこはグッと我慢。「両手でコップを持とうね。」と肯定文に変換するように気を付けています。最初は難しいと思いますが、ＳＰ活動をする際に少し考えながら子どもたちに声かけをしてみてください。きっと現場でも使えるテクニックになると思います。